

エジプトルーセットオオコウモリに多発した *Yersinia pseudotuberculosis* 感染症について

○玉井勘次¹⁾, 桜井普子¹⁾, 山田貴美子¹⁾, 大迫美紗希¹⁾, 七村光義¹⁾, 鶴殿俊史²⁾
(¹⁾ 鹿児島市平川動物公園、²⁾ (株)三和化学研究所チンパンジー・サンクチュアリ・宇土)

鹿児島市平川動物公園では 2008 年 4 月 22,26,27,28 日に、エジプトルーセットオオコウモリ 4 個体 (No.1-4) が死亡し、30 日に衰弱個体 (No.5) が獣舎床面で動けなくなっていたため入院した。

26 日に死亡した幼獣 (No.2) を除く 3 例では、肝臓に直径 2-10mm の膿瘍を多数認めた。4 例全てにおいて、他の臓器には肉眼で確認できる病変は認められなかった。

病原因子の検索として No.3 の肝臓組織で Nested-PCR (チンパンジーサンクチュアリ宇土) を実施し、*Yersinia pseudotuberculosis* (以下 Yp) の DNA を検出した。また、No.3 及び No.4 の肝臓スワブの培養同定でも Yp (ペニシリンおよびテトラサイクリン耐性) を検出した。No.4 の病理組織検査では肝臓及び脾臓で多発性膿瘍、腎臓で化膿性腎包膜炎、肺で散在性気管支周囲炎を認めた。

治療及び予防として、コウモリ群へオルビフロキサシン (商品名ビクタス) 20mg/群 (約 30 頭) の経口投与、No.5 へ同 1.5mg/頭の皮下注射、獣舎と食器の塩化ジデシルジメチルアンモニウム (商品名アストップ) による消毒を実施した。当該コウモリを飼育する夜行性動物舎には Yp に感受性の高い霊長類、保菌しやすい齧歯類を含む 8 種を飼育し、動物病院にも霊長類・齧歯類が入院していた。そこで、水平伝播に留意し、当該コウモリの飼育作業順を最後にするなど、作業手順を変更した。以後、死亡及び衰弱個体の発生は認められず、コウモリ群・No.5・夜行性動物舎 8 種から採取した糞便の PCR からは Yp は検出されなかった。

Yp 感染症は冬季の発生が普通であるが、本症例は 20℃前半に温度管理された遮蔽空間で、4 月末に発生していることが特徴的である。今回は感染経路の特定にはいたらなかったが、季節性やキャリアーについての想定を従来よりも拡大するべきかもしれない。